

平成28年度事業報告（総括）

平成28年度も観光客やコンベンションの誘致活動、さらには当協会が実行委員会の事務局を担う各種イベントなどを中心に、旭川地域のPRや魅力発信に取り組んで参りましたが、役員の皆様方には各事業の実施にあたり、4委員会（総務、企画・事業、コンベンション・誘致、観光情報）の運営や各事業の実行委員会開催などを通し、活発に議論、活動をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。また、具体的な事業実施にあたっては、多くの会員の皆様方にもご支援・ご協力を賜りましたことに重ねてお礼を申し上げます。

リオデジャネイロ五輪・パラリンピックイヤーで、地元旭川とゆかりのある久保倉里美選手（陸上）や山部佳苗選手（柔道）らが日本代表として活躍する中、レスリング女子日本チームやウィルチェアラグビー日本チームによる直前合宿が旭川で開催されました。合宿初開催となったレスリング女子では旭川市、体育協会、会議所、当協会など関係団体による歓迎組織を立ち上げて歓迎、その効果もあって多くの選手が見事な活躍で、優秀な成績を収めたことはまだ記憶に新しいところです。

当協会が行う第3種旅行事業では、平成22年から受け入れている世界最大の自転車メーカー、台湾GIANT社によるサイクリングツアー（13回目）が旭川夏まつりの開催時期に合わせて実施され、40余名の参加者が、祭りの最終日に日本の伝統的な御輿を担ぐという貴重な体験をして離旭いたしました。また、当協会と友好提携盟約を締結している宮崎市観光協会との交流事業では、10月の当協会からの訪問団に一般市民にも参加を呼びかけて実施したところです。フィルムコミッション事業では、映画「羊と鋼の森（東宝）」や「写真甲子園（シネボイス）」の撮影が行われ、旭川市内や近郊での多くの映画、テレビドラマ、CM等の撮影支援を通じ、旭川の魅力を発信することができました。

そのような中で、当協会が実行委員会の事務局を担う初夏を彩る一大イベント「北海道音楽大行進（6月4日開催予定）」が、第84回目にして初めて前日からの悪天候により中止に至るという大変残念なこともありました。

一方、財務基盤の安定的確立に向けては、平成25年度に一般社団法人に移行して以降、地道に会員数の拡大に努めて参りました。おかげをもち、現在600余の多種多様な企業、団体、個人の会員の皆様にご支援をいただきながら、全国的にも稀な「オール旭川」による推進体制を維持させていただいていることに感謝を申し上げますとともに、「観光で地域を盛り上げる」という多くの関係者の方々の意気込みに、あらためて当協会の使命の重さを痛感しているところです。

旭川市がこの5月26日に発表した平成28年度の旭川市観光入込客数（次ページの別掲参照）は、昨年8月に相次いで上陸した台風の影響や例年になく早い積雪等の影響により、総体の入込数は減少しましたが、宿泊延数、外国人宿泊延数では、いずれも前年度を上回り、過去最高を記録する結果となりました。昨年9月の中国東方航空の北京便の休止や11月の台湾トランスアジア（復興）航空の突然の解散などで旭川空港の国際線利用客が大きく減少した一方、JR等を利用して周遊しながら旭川入りする観光客等が増加してきているということが言えます。

国（観光庁）は、旺盛なインバウンド需要を取り込むことにより、交流人口を拡大させて地域の活性化につなげようと、観光地づくりの核となる「日本版DMO」を全国各地に形成し、関係省庁が連携しながら重点的に支援を行っていく方針を明らかにしました。これを受け、旭川市を含む1市7町のエリアで構成する大雪広域観光圏推進協議会（事務局：当協会）は、当該国の方針に沿った観光地

域づくりを目指すこととし、平成28年11月2日に地域連携型の「日本版DMO候補法人」として国の認定を受けるに至り、現在、関係市町と協議をしながら所要の事務を進めているところです。台湾や中国を結ぶ航空路線の廃止・休止など、旭川空港を結ぶ国際航空路線は、千歳を除く道内他空港とともにたいへん厳しい状況にあります。今後はエリア内の観光・交通関連事業者、第一次産業事業者など、多様な関係者と合意形成を図りながら魅力ある観光地域づくりを着実に推進していくことが求められています。

以上を総括として、以下個々の概要についてご説明いたします。

[別掲]

平成28年度観光入込客数について

〔平成29年5月26日発表〕
〔経済観光部観光課〕

1 観光入込客数

5,310,000人（対前年同期比96.0%）

・平成27年度 5,530,000人（対前年同期比103.4%）

・平成26年度 5,350,000人（対前年同期比100.3%）

2 宿泊延数

857,100泊（対前年同期比106.2%）

・平成27年度 807,200泊（対前年同期比108.4%）

・平成26年度 744,400泊（対前年同期比108.4%）

3 外国人宿泊延数

188,365泊（対前年同期比123.8%）

・平成27年度 152,182泊（対前年同期比176.5%）

・平成26年度 86,202泊（対前年同期比177.1%）

4 内訳

	観光入込客数 (人)			宿泊延数 (泊)	外国人宿泊延数 (泊)
	うち道外客(人)	うち道内客(人)			
平成28年度	5,310,000	2,519,400	2,790,600	857,100	188,365
平成27年度	5,530,000	2,568,800	2,961,200	807,200	152,182
平成26年度	5,350,000	2,456,300	2,893,700	744,400	86,202

5 特徴

日帰り客を含めた観光入込客数は減少したが、宿泊延数、外国人宿泊延数のいずれも前年度を上回り過去最高を更新した。

観光入込客数は、8月に相次いで北海道に上陸した台風や最も早い長期積雪初日(10月29日)など、天候が客足に影響する道内客が大きく減少した。

宿泊延数は新設ホテルの本格稼働等によりハイシーズンにおける宿泊需要に対応できたほか、外国人宿泊延数の増加が全体の宿泊延数を牽引した。外国人宿泊延数は、3年連続で過去最高を更新したものの、対前年度比123.8%と伸び率が鈍化している。

国・地域別では、台湾の復興航空の解散による旭川・台北線の運休の影響で台湾が減少したが、韓国のティーウェイ航空によるチャーター便運航で韓国が増加したほか、新千歳空港直行便を利用するタイや香港の伸び率も大きく、これまで新千歳空港周辺の道央圏を中心に周遊していた外国人観光客が、本市を含む道北圏の周遊も増えてきており本市をはじめ広域で誘致活動を行っている成果が着実に実を結んできている。

◆国（地域）別の宿泊延数は以下のとおり。 （ ）内は前年度

1位	中国	74,190泊（63,506泊）	対前年度比116.8%
2位	台湾	23,437泊（26,775泊）	87.5%
3位	タイ	22,787泊（12,318泊）	185.0%
4位	香港	19,697泊（15,171泊）	129.8%
5位	韓国	12,153泊（6,407泊）	189.7%